

2016年度 プロジェクトレポート

皆さまのご支援が、日本中で、世界中で、よろこばれています！

2016年度の実績(概算)

ソロモン諸島・パプアニューギニア 熱帯雨林保全

熱帯雨林保護地区として登記申請
38,000 ha

熱帯雨林保全と経済発展の両立を目指して、現地の人たちの支援を実施。

ソロモン諸島とパプアニューギニアでは、森林伐採企業などから熱帯雨林を守るために、自然という財産を活用しながら共生するための意識と産業の育成を進めています。いくつか例をあげると、定置有機農法を定着させるために、地元住民への研修を実施。現地の職業訓練校において、植樹などの緑化整備。さらには活動によって生まれた成果物を現金化するために、販売店の設置も計画しています。



PP. 特定非営利活動法人 エービーエスディ (APSD)

緑化整備
4,000 m²

キリバス共和国・ツバル 南太平洋諸国支援

マングローブの植林
10,216 本

小さな島国の海岸線を守るために、マングローブの苗木を植樹。

南太平洋には、地球温暖化の影響を受けやすい小さな島々が点在しています。そのような国々に対して、エコカード基金では長年にわたって支援を続けています。キリバス共和国やツバルでは、昨年度も海水で育てることのできるマングローブを植樹しました。生育した木々は、高潮やハリケーンによる高波の被害を最小限に食い止めることにも、たくさんのCO₂を吸収。地球温暖化の防波堤となっています。



PP. 特定非営利活動法人 国際マングローブ生態系協会



PP. 特定非営利活動法人 ツバルオーバークーパー

マングローブの植林
4,200 本

ありがとう！

Ko rabw!

fakafetai!



北海道 ゴルフ場跡地を森に還そう 種まき塾

苗木の育成
8,530 本

昨年度も、種から育てた苗木が北の大地ですくすくと育っています。

森の中から種子や実生(芽生してまもない木)を集め、苗木を育て、道内で植樹する団体に寄付する取り組み。富良野自然塾をはじめ、8,530本の苗木を届けることができました。また今年は、コスモ石油エコツアー「みんなの参観日」の一環として、エコカード会員の皆さまと育苗体験なども実施。ゴルフ場の跡地が、森に戻っていく姿を実際に見学してもらうことができました。



PP. 有限責任事業組合 富良野種まき塾

千葉 九十九里浜の海岸林を震災前の姿へ戻そう

クロマツの植林
2,000 m²

東日本大震災の被害を受けた防災林を、復活させるプロジェクトがスタート

千葉県の海岸線が、東日本大震災の被害を受けていることは、あまり知られていません。しかし、津波によってなぎ倒された防災林が、実は至る所にありました。そこで市民ボランティアの協力のもと、クロマツの植樹とその整備を実施。参加者からは「千葉県も被災した地域とは知らなかった」「来年の植林も楽しみ」など、たくさんの方が寄せられています。



PP. 特定非営利活動法人 森のライフスタイル研究所

ネパール 野口 健 ヒマラヤに森をつくろう

苗木の育成
3,000 本

標高3,600mの地で荒れた森林を再生するために、種から育てた苗木を植樹。

過度な森林伐採によって、荒れ果てしまったネパールのサマ村。ここはヒマラヤ登山に欠かせないシェルパ(登山の案内人)の住む村ということもあり、アルピニストの野口健氏が旗振り役となったプロジェクトが動き出しました。現在はネパール人の技術者と協力して、植樹するための苗木を種子から丁寧に育てており、来年度からの植樹を目指した活動を続けています。



PP. 特定非営利活動法人 ビークエイド

フィリピン 異常気象に負けない森づくり

植林
7,000 本

現地の人たちと協力して、苗木の植樹とその管理を実施。

ここフィリピンでも森林伐採が進んだ山が増え続け、大型台風などの影響を食い止められずいます。そこでエコカード基金では、暴風や乾燥に強い木々を植樹する活動を支援。現地の在来種6,100本のほか、暮らしも豊かにする果樹950本の苗木を育て、そのうち7,000本を植樹しました。また同時に、彼らの環境意識を高めるために研修も実施するなど、草の根の活動を続けています。



PP. 公益財団法人 オイスカ

山梨 馬と守る都留の里山保全

里山の整備
15 ha

森林が本来の力を発揮するために、里山で間伐を実施しています。

ここは、富士山の北東に位置する山梨県の都留。東京ドームの約3倍という広大な面積の里山を守る活動が進められています。里山がもつCO₂の吸収能力を十分に発揮できるように間伐を実施し、そのときに発生した間伐材を、薪という商品に。また化石燃料に頼らない取り組みのひとつとして馬の力も活用。田畑を耕したり荷物を運搬したりする働き手としてはもちろん、その糞尿を肥料として活用しています。



PP. 特定非営利活動法人 都留環境フォーラム

静岡 世界遺産 富士山の森を守り再生させよう

森の整備
6,000 m²

草刈りや間伐を実施することで、世界に誇れる森に。

富士山の森を、世界遺産の名にふさわしい姿であり続けるために、2つの活動を進めています。ひとつは、2012年に植樹した広葉樹の森を育てる取り組み。今年は、植えた木々が育ちやすい環境をつくるために、4回にわたって雑草を取り除く作業を実施しました。もうひとつは、西白塚協定林の森づくり。こちらは1996年の大型台風による倒木被害からの整備のため、間伐などによって森を整備しました。



PP. 特定非営利活動法人 富士山クラブ

宮城 海を守るために木を植える 森は海の恋人

植林
1,600 本

植樹祭の開催を通じて、たくさんの人が森と海のつながりを実感。

東日本大震災から6年がたった今、海は豊かさを取り戻しています。その回復に欠かせない海と森とのつながりの重要性に、一人でも多くの人たちに気付いてもらうため、6月に植樹祭を実施しました。当日は1,500人もの参加者が訪れ、1,600本の苗木を植樹。同時にこの取り組みを広めるために、SNS等を通じて発信すると19,000件ものアクセスを達成できました。



PP. 特定非営利活動法人 森は海の恋人

宮城 海岸林再生10か年計画

クロマツの植林
1.5 ha

東日本大震災からの発展的復興のために、海岸林を整備しました。

2011年の震災による津波の影響で、壊滅的な被害を受けた海岸防砂林。強風や飛砂から毎日の暮らしを守ってくれた、この1.5haの防砂林を復活させるために、クロマツを植える活動がはじまりました。エコカード基金がその一部を支援していますが、全体では昨年度だけで、植林面積が11ha。育林面積においては東京ドームの約8倍になる37haに達しました。1,786人のボランティアと力を合わせた取り組みは、宮城県知事をはじめとした方々の視察が相次ぎ、高い評価を得ています。



PP. 公益財団法人 オイスカ

長野・宮城 C.W.ニコル・アファンの森と 東松島の森づくり

森の整備
11 ha

度重なる悪天候に負けず、CO₂を吸収しやすい森をつくっています。

アファンの森では、およそ11haにおよぶコナラ林で間伐や枝打ちを実施。木々が生育しやすい環境を整えCO₂がより吸収しやすい森に整備しました。また間伐材の搬出には馬を利用し、化石燃料を使わない工夫がなされています。一方の東松島での取り組みは、東日本大震災後手付かずになった森の再生、さらにはその啓蒙活動。笹や藪の切り払いのほか、シンボルでもあるツリーハウスの整備を実施しました。



PP. 一般財団法人 C.W.ニコル・アファンの森財団

長野 アカマツの森再生

再生面積
4 ha

40人の参加者たちと森を整備。天然のきのこが育ちやすい環境に。

手入れが行き届かず、本来の機能を発揮できずにいた長野県伊那市のアカマツの森。かつてのような元気な森に復活させるために、この1年間で約48人のボランティアと4haの森を整備することができました。3年間による取り組みによって、シメジなどの食用にできるキノコが生息するポテンシャルを高めることができるとともに、生物多様性調査でも順調な進捗が確認できました。



PP. 特定非営利活動法人 森のライフスタイル研究所

